

宮城県地方税滞納整理機構通信

納めLINE

平成27年度
第4号

納めてください(標準語)
納めらいん(宮城の方言)
納めLINE(通信紙名)

宮城県市町村合同公売会3名取

昨年度大好評だった宮城県市町村合同公売会を今年度は名取市で開催いたします！宮城県及び各市町村が滞納者から差押えた動産を売却します。代金と引換えにその場で落札物を受け取れます。

家電製品・貴金属・美術品などを割安に購入できるチャンスです。是非、入札・せり売りに御参加ください。公売物件についての詳しい情報は、県税務課のホームページを御覧ください。

日時	平成28年1月16日(土)	
	午前9時30分より開場	
場所	名取市文化会館 (名取市増田字柳田520)	
参加団体	宮城県・各市町村	
出品点数	約150点	
日程	10:30～	第1回入札開始 10:45～開札
	11:30～	第2回入札開始 11:45～開札
	12:30～	せり売り開始 13:00 終了
	13:30～	再入札開始 13:45～開札

※出品物の都合で入札中止又は回数や時間等を変更する場合があります。

徴収状況 (両年度とも11月30日現在)

	平成27年度	平成26年度
引受件数(件)	795	811
引受税額(千円)	798,686	794,394
徴収済額(千円)	295,050	292,198
徴収率	36.9%	36.8%
本税完納件数	246件	230件
捜索件数	92件	49件

機構活動状況



昨年度の公売会風景

平成27年11月30日現在の徴収状況を報告します。

徴収率は36.9%と前年度と同水準となっております。

その他の数値を比べて見ますと、完納件数、捜索件数とも昨年度を上回っている状況です。

今年も残すところあとわずかですが、機構職員の今後の活動に御期待ください。

研修ればーと

機構職員の
受講報告

平成27年7月22日から24日の日程で岩手県盛岡市で北海道・東北地方職員を対象に行われたブロック別徴収事務研修について報告いたします。

この研修は事前にグループ研究を充実させるための事例研究問題が与えられ、情報交換テーマの提出が求められました。事前の研究問題は私にとってはあまりなじみのない設問が多く、国税徴収法や事務室内の参考図書を読み、それでもわからないことは事務室内の職員に相談して自分なりの考えをまとめ当日に臨みました。

1日目は、滞納整理の進行管理について受講いたしました。徴収率の向上の唯一の方法はまず現年の徴収率を上げ、滞納繰越分を減らす取組を同時に実行するしかありません。それは個人の力だけではなく、得た力

を繋いでいく組織の力が問われるというものでした。納期内納付者のためにも滞納整理業務は効率よく進めなければならぬと感じました。

2日目は班毎に分かれ、事前の研究問題の意見交換、ロールプレイングでした。ロールプレイングの課題は二つあり、立会人をたて捜索を開始している最中に家人が帰宅した場合と差押予告書に対して苦情を言いに来た場合を行政側と滞納者側の立場になって班毎にシナリオを考えて

対戦するものでした。行政側の立場は普段の対応そのもので演じることができましたが、滞納者側は私がよく耳にする話を演じればいいのですが、演じているうちに段々罪悪感が湧いてきて、苦しくなりました。

私が演じて感じた思いを今までは考えもしませんでした。滞納者も普段感じていたのではと思えました。対戦相手の行政側の折衝も、とても勉強になり、今後の自分の折衝に役立てたいと思えました。

最終日は、班毎にまとめた事前研究問題の全体発表でした。各自自らの考えや情報が聞くことができるとも参考になりました。私はこの研修に参加して改めて日々の徴収業務を振り返ることができました。今後多く多くの経験を積みこからの業務に役立てていきたいと思えます。

実録 搜索レポート

納税折衝を図るため、本人宅に訪問したところ、親族と名乗る男性が在宅。「本人は、〇〇町の病院に入院している。自分はこの家には住んでおらず、雨漏りの修繕をするように頼まれたため、本人宅に来てい

るだけだ。今度、本人に会ったときに、県庁の職員が自宅に来たことを伝えておく」との返答があった。自宅や敷地内で動物を飼っている

様子が見受けられたため、毎日、誰かが、餌やり等の世話をしているはず。本人は単身世帯で、同居人はいないはずなんだが・・・訪問した日から、二か月以上経過するも、案の定、本人からの連絡は無い。その間、各種調査を進めてい

くなく、訪問時に応対した男性の返答に、矛盾点を見付けた。どうやら、「あの男性は、親族ではなく、本人である可能性が高い」。そう判断し、搜索の執行を視野に入れ、改めて、本人宅を訪問することにした。再度の訪問時にも、あの時と同じ男性が在宅。帽子を被っていたため、当初は、人相がよく分からなかった

していた男性は、親族ではなく、滞納者本人だったようだ。搜索長が、「〇〇町の税金に滞納があることから、この場で滞納金額の全額を納付できなければ、国税徴収法第百四十二条に基づく搜索を執行する」旨説明するも、興奮した

状態で全く話に応じる様子はない。記録のために持参したビデオカメラを、玄関先で叩き落とされてしまい、さらには、スキーストックのようなものを握って、振り回す素振りを見せる有り様。搜索長が警告するも、一向に収まる様子がない。

搜索員の身に危険を感じたことから、警察に通報。本人とは距離を取りながら、折衝を継続したところ、本人も、大分落ち着きを取り戻したため、警察官の到着を待って、搜索を執行することになった。

結果的に、本人宅からは、目立った財産を発見することができず、動産数点の差押えのみで終わった。完納には至らなかったため、今後、本人自らが滞納を解消するように動かなければ、所有している不動産を差押えることになる。

私が、搜索員（長）として経験した搜索のうち、警察に通報するまでに至ったのは、この事例が初めてだった。改めて、「搜索の際は、何が起こるか分からない」という危機管理の重要性を再認識させられた

機構職員のグオイ又

搜索になった。

今年度某市より派遣されている職員です。市職員としては三年、徴税経験としては一年を経過しようとしていた、ある冬の日に課長からの内示、そして、今回の異動という運びとなりました。市の徴税部門で勤務するようになってから「宮城県地方税滞納整理機構」という名前は常に聞いていましたが、毎年、徴税経験二年目の職員が入れ替えて派遣されていたので、今回私が選ばれたことには大変驚いており、機構で大きな実績を残してきた先輩方同様に滞納整理が行えるのか、不安を持ちながら異動したのを今でも覚えています。

機構に異動し、大きく影響を受けたのは私の業務に対する姿勢でした。機構に来る前の私の姿勢は「トラブルを恐れて、大事な話を先延ばしにしてしまう」という傾向がありました。事実、地元の市で受け持った私の案件は分納誓約をすることが多く、上司からよく早期改善の方針を立てるよう指導を受けていました。

しかし、こちらの部署では滞納整理に関し、明確に期間を示し、具体的な改善の見込みがなければ、法的に則り早期に強制処分を行う、という

しっかりとした立場を貫いていました。今でも「機構という部署は厳格な部署だな」という印象を持ち続けています。

そんな部署だからなのか、目標意識が統一されているため、職場の雰囲気が高く、ざっくばらんに相談ができます。また地元に戻られた先輩方にも指導を仰げるため、異動当時の不安はなく、こういった繋がりが過酷な業務に携わる中で重要な連携だと感じています。

十二月を迎え、今年度も残すところ三ヶ月となりました。来年度の課税が課される前に、早期の滞納整理の推進と、機構の明確な立場からの強制処分を行っていき、各市町村の地方税滞納の圧縮に努めたいです。

ご意見・ご要望はこちらへ

宮城県地方税滞納整理機構
(宮城県総務部地方税徴収対策室内)
〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
TEL 0227-211-6681
FAX 0227-211-2289
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ohoutai/>



滞納整理機構キャラクター
おさむね君